

令和7年度 第1回 学校運営協議会 議事録

校名	府立交野支援学校
校長名	可知 万千代

開催日時	令和7年7月17日(水) 10:00～11:30
開催場所	府立交野支援学校 校長室
出席者(委員)	早野 眞美(会長) ハ尾 康則(副会長) 古賀 正弘(委員) 佐藤 春彦(委員) 【欠席】山添 充寛(委員) 五鬼助 朋子(委員)
出席者 (学校)	可知 万千代(校長) 藤原 健太(教頭) 苅谷 美加(教頭) 與賀田 厚(事務長) 相馬 寿子(首席) 木下 達夫(首席) 木下 昌代(高等部主事) 矢口雄基(中学部主事) 上田 悠司(小学部主事)
傍聴者	なし
協議資料	「令和7年度 学校経営計画」について/「実践報告」について/「令和7年度 学校教育自己診断」 について/大阪府交野支援学校 学校運営協議会 実施要項

協議内容・承認事項(説明・意見の概要)

1 会長・副会長の選出 昨年度に引き続き、会長に早野様、副会長にハ尾様を選出・合意

2 報告

1) 令和7年度・8年度の教科用図書について(藤原教頭)

附則第 9 条本である一般図書などを教科書として採択していることを実物で提示、紹介。

2) 実践報告 教育活動の質的向上と支援機器の活用(学校経営推進費に挑む軌跡)

学校経営推進費の獲得に向けての挑戦について報告

- ・支援機器の導入目的:児童生徒の主体性を育むため、身体的・認知的支援
- ・本校が推進する機器と活用例:スパイダー:立位保持と運動支援 / キャリーロコ:移動支援 / フレームランニング:走行体験支援 / コスモスイッチ:意思表示支援、販売体験 / スイッチボット:環境制御支援 / サウンドビーム:音楽体験支援 / 介助用リフト:教職員の負担軽減と安全な移乗支援などについて説明報告。*以上の教材は運動面だけでなく、同時に知的面にも大きく作用する(発達のカスケード)

委員より

・スパイダー、キャリーロコは知っていたがフレームランニングは初めて知った。介助者なしで動けることはすごく良いことである。自分で動けないからこそ 立位・動く体験を積むことは大変良い。機器を導入したあと子どもの活動量等がどれくらい変化したかの数値化が難しいが工夫が必要。大学では万歩計を使ったりしている。半面頑張れば頑張るほど教員の腰痛が課題となり、対策が必要である。

・所属校では LITALICO を昨年度から導入し、個別支援が必要な生徒の支援計画の組み立てに活用。

e-Learning の導入で生徒一人ひとりの活用度が見える化している。生徒の興味を引いてプラスになっている。

→交野支援では、情報共有のツールとして Teams 等 ICT を活用している。また校務支援システム「賢者」による情報一元化への導入準備を始めている。

- ・自立活動の技能の継承が難しい。フィットネス機器（経験が浅くても使える）機器を使うことで子どもたちが楽しみながら取り組み意欲向上、身体負担軽減につなげる方法もある。
- ・津田のグラウンド（トラック）を使ってフレームランニングを使った交流も考えられる。
- ・卒業してからの福祉サービスへのこれまでの教育の過程を正確に伝えられるようにしておくことが大切。【この子らを世の光に】福祉の思想（昭和 48 年の NHK の特集）「を」と「に」の使い方 この子たちの存在が周囲の人に光を与える。この言葉と出会いが今の仕事につながっている。

3 議事

1) 令和 7 年度学校経営計画の目標達成にむけての取り組みについて（主に安全・安心の向上に向けた取り組み）

■不審者対策の強化：校門の管理体制の見直し

委員より：各委員所属の実態の情報共有 A 門扉は開放しているが防犯カメラを設置している。B 正門は昼間開放。学生通用門は登下校のみ開放。防犯と利便性との兼ね合いが難しい。C 不審者の侵入を防ぐことは完全には難しいため、侵入されたときの防犯対策が必要（警備会社による警備、出入口に指紋認証設置）D 他校（知的支援学校）では門が閉められている。→防犯上、門が閉まっていることで抑止力にはなると思う。ただ、門を閉めたとしてもどこからでも入れてしまう可能性はある。

■災害対応訓練：避難訓練の定期実施と非常持ち出し袋の整備 および運用

■情報管理：保護者との情報共有体制の見直し、校務支援システム「賢者」による情報管理一元化を推進

■教職員の働き方改革と専門性向上

- ・ストレスチェック：教職員の健康状態を把握し、腰痛予防などの対策を講じる
- ・業務効率化：ICT ツールを活用し、業務の DX 化を推進
- ・専門性向上：ICT 活用研修、授業研究、外部専門家との連携による知見の導入

■地域連携とキャリア教育の推進

- ・地域連携・社会参加：交流および共同学習、外部イベントへの参加、外部講師連携を通じて社会参加を促進
- ・企業連携：マクドナルドなどとの協働による職場体験や販売体験の実施

2) 学校教育自己診断アンケートについて

アンケート対象、実施期間、アンケート方法、分析方法について説明→承認

分析視点：「肯定的評価が 70%未満の項目」と「わからないの回答が 25%以上」の項目

保護者の回答率向上（昨年度は 56%）については改善検討していく。

3) 委員より

- ・交野自立センターの現状を紹介いただいた。物価高騰による影響が大きい。→昨今の米価格や光熱費の高騰により、利用者への食事提供が大きな課題となっている。
- ・教育活動について教職員自身で振り返ることはすばらしい。個別最適化の課題について今回の資料が参考になった。今後も協働させていただきたい。

○今後の予定と継続課題

- ・次回会議予定：第 2 回：令和 7 年 12 月 12 日 ⇒第 3 回：令和 8 年 2 月中旬
- ・継続課題：教育活動の質的向上/地域との連携強化/教職員の健康管理と業務改善